

研究成果の紹介

飼料イネ栽培に適する水稻品種の選定

農業研究部作物グループ

1. 成果の内容

新たな自給飼料として、また水田転作作物として、イネのサイレージ利用が期待されています。そこで、三重県の早期栽培地域において、飼料イネサイレージ（稲発酵粗飼料）に適する水稻品種を、移植栽培と湛水直播栽培の栽培法により選定しました。

イネをサイレージへ利用する場合、熟期、耐倒伏性、耐病性、収量、サイレージ品質などが品種選定のポイントとなります。特に、飼料イネの収量は、茎葉（ワラ）部も収量となりますので、玄米収量の低い水稻品種でも、ワラ重が大きいものであれば飼料イネとして利用できる可能性があります。

平成11～13年の検討結果から、移植栽培では「クサホナミ」（関東飼206号）は耐倒伏性が高く、多収であり、サイレージ品質が良い品種です。また「はまさり」は籾収量がやや低いものの、茎葉部の収量が高く、サイレージ品質が非常に良好です。移植栽培ではこの2品種が有望と考えられます。

この2品種は、湛水直播栽培でも、耐倒伏性が高く、移植栽培と同様の収量性を示すことから有望です。また、「ホシアオバ」（中国146号）は、移植栽培では収量がやや低い品種ですが、湛水直播栽培することで、茎葉部が増加する傾向にあり、多収となります。湛水直播栽培では、以上の3品種が有望と考えられました。



ホシアオバ      はまさり      クサホナミ

2. 技術の適用効果と適用範囲

飼料イネ栽培を定着させるには、多収により生産コストを削減することが重要なポイントです。この情報を参考に、適切な品種を導入することで、多収が達成でき、耕畜連携による飼料イネ栽培の定着に寄与できると考えられます。

3. 普及・利用上の問題点

今回、選定した品種はすべて晩生型ですので、周辺水稻の水利慣行との協調が必要となる場合があります。また、これら品種で多収を達成するには、基肥窒素8～10kg/10a、穂肥3～4kg/10a程度の多肥栽培が必要です。

（神田 幸英）

飼料イネ有望品種の特性

	品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	耐倒伏性	収量性		サイレージ品質
		(月日)	(月日)			茎葉	籾	
移植	クサホナミ	8.11	9.29	95	極強			良好
	はまさり	8.20	9.28	94	極強			良好
湛直	ホシアオバ	8.10	10.5	102	強			極良好
	クサホナミ	8.24	10.5	91	極強			良好
	はまさり	8.27	10.1	92	極強			極良好

飼料イネの収穫期は、成熟期より10～15日ほど早い黄熟期が適期です

収量性： = 極多収、 = 多収、 = やや多収

移植日：5月1日、湛直播種日：5月10日